

# やまびこ

やまびこネットワーク情報誌 VOL.61

発行日 平成22年10月26日

編集 地域づくりネットワーク長野県協議会

事務局(長野県総務部市町村課地域振興係内)

電話 026-232-0111(内線 2127)

FAX 026-232-2557

E-Mail [s-shinko@pref.nagano.lg.jp](mailto:s-shinko@pref.nagano.lg.jp)

URL <http://zuku.umic.hp/ynet/>

## ○やまびこフォーラム2010 in 木曾の詳細が決まりました!! ~参加者募集中~

ネットワーク会員の皆様には既にご案内済みですが、今年度のやまびこフォーラムは、「地域資源を掘り起こそう スローフードからはじまる地域づくり」をテーマに、11月27日(土)に木曾地域で開催します。

B級ご当地グルメの祭典「B-1 グランプリ」(今年度は9月18日、19日に厚木市で開催)が大変な賑わいを

みせるなど、国民全体の「食」への関心の高まりから、「食」に的を絞った地域活性化への取組が全国各地で盛んに行われています。

今回のフォーラムでは、参加者全員の皆さんに実際に県内の「地元食材」を食べ比べてもらって、お互いの地域資源を発見、体感してもらう良い機会としていただければと考えています。

# やまびこフォーラム 2010 in 木曾

地域資源を掘り起こそう

「スローフード」からはじまる地域づくり

日時 平成22年11月27日(土) 受付12:00~

場所 木曾郡民会館 参加 無料

[交流会を除く、昼食(弁当)500円(希望者)]

- 昼食(12:00~) 一地元の食材を使った特製弁当一
- 歓迎セレモニー(12:30~) 一木曾のゆるキャラたちが登場一
- ブース展示(12:30~) 一ネットワーク会員の活動発表一

### ■第1部 講演(13:30~15:05)

講師 金丸 弘美 氏(食環境ジャーナリスト)

演題 「食と農が地域をつくる」

【金丸弘美氏経歴】

1952年佐賀県唐津市生まれ。食環境ジャーナリスト、食糧プロデューサー、食からの地域再生、地域力創造と活性化、食育と食育ワークショップなどをテーマにした執筆活動のほか、食の総合プロデューサーとして、食育と地域づくりを連携させた食のワークショップのプランニングから、プロモーション、ツアーへの展開といった食のアドバイザー事業、幼稚園から大学まで各学校での食の講師なども手がける。ラジオ、テレビ出演、講演活動も多い。現在、総務省地域力創造アドバイザー、内閣官房地域活性化推進部地域活性化推進課、農林水産省ブランド化支援事業プロデューサー、日本ベンチャー協会理事兼委員会幹事、明治大学農学部食料環境政策学科「食文化論」兼任講師、ライタースネットワーク相談役などを務める。



### ■第2部 地域対抗スローフードコンテスト(15:30~17:00)

県内各地から「スローフード」が大集合  
参加者による試食・投票により各賞決定

### ■第3部 交流会(17:10~19:00)

木曾の地酒や郷土食を味わい夜なべ談義  
(参加費 3,000円)※お車を運転される方の飲酒はご遠慮ください。

第2部・第3部の参加は、事前の申し込みが必要です。

#### 全国発祥食品サミット2010 in 木曾

日時:平成22年12月4日(土)~5日(日)

場所:木曾郡民会館 主催:木曾町

【4日】受付12:30~

□開会式

「発祥食品の未来」

□中継式典(産直大学全開披露)

□パネルディスカッション

□スローフードフェスタ(参加者交流会)

参加費 3,000円

【5日】9:00~

□開会式(木曾町)

□「食の力で人々の暮らしを豊かにする」

「食文化」-産直食品ネットワーク-

(問合せ先)

木曾町企画課 0264(2)4287

主催:地域づくりネットワーク長野県協議会

共催:長野県(財)長野県市町村振興協会

問合せ先 地域づくりネットワーク長野県協議会木曾支部  
(事務局:長野県木曾地方事務所地域政策課)  
0264-25-2212

後援:長野県市会 長野県町村会

信濃毎日新聞社 朝日新聞長野支局 産経新聞社長野支局

読売新聞長野支局 毎日新聞長野支局 中日新聞社

長野日報社 市民タイムス

NHK長野放送局 SBC信越放送 NBS長野放送

TSBテレビ信州 abn長野朝日放送

「うちの団体は「食」の分野とは直接関係がないから・・・」などと最初から決めつけずに、是非お気軽にご参加いただければと思います。

誰もが親しみやすい「食」を切り口に、「地域づくり」という会員共通のテーマについても一緒に考える1日を過ごしてみませんか?

また、第1部の講演では、この分野で幅広くご活躍中の金丸弘美先生をお招きし、全国各地の食を通じた地域活性化事例の紹介を中心に、示唆に富んだ楽しいお話を展開していただく予定にしています。

## ○新体制が始動しています！！

去る7月26日(月)に開催した、地域づくりネットワーク長野県協議会の平成22年度の第1回幹事会において新役員が選出されました。今後2年間、新役員の皆様を先頭に、「地域づくり」について、共に知恵を出し合い、共に行動していけたらと考えます。他団体との交流の機会を持つことは、組織の活性化が図られたり、抱えている悩みの解決につながったり、多くの利点があるはずで。幹事以外の会員の皆様からも積極的なご発言・ご提案をどしどしお寄せください。お待ちしております。



### 新役員のご紹介

- 会 長 稲垣 康 (木曾支部長 (がったぼ会))  
副会長 有賀 勝 (上伊那支部長 (さわそこ里山資源を活用する会))  
監 事 竹内 充 (上小支部長 (学生地域くらし創り考房こみっと))  
監 事 木村 宏 (北信支部長 (NPO法人信越トレイルクラブ))

～新会長就任に寄せて～ 稲垣 康

今年度からやまびこネットワークの会長となりました稲垣です。皆様におかれましては、日ごろの地域づくり、まちづくりの活動、お疲れ様です。

昨年は「やまびこフォーラム in ながの」に参加しました。各地で活躍されているまちづくりの団体の皆様の活動を聞き、自分達だけではないと感じ元気ももらいました。これらの団体をつなぎ、連携していくことがやまびこネットワークの本来の役割だと考えています。

地域づくり、まちづくりの活動は広範囲におよび、様々な活動が行われていますが単独で行っていることも少なくないと思います。やまびこネットワークに入っていただくことで、これらの中で類似した活動があれば自分達の活動の参考にもなるのではないかと思います。

また、県の元気づくり支援金を活用し各地で地域づくりの活動が盛んに行われています。このような団体とも連携していければ良いと考えています。

地域活性化の活動を定義付けすることは難しいと思いますが、人と人の繋がりができることが大切なのだと思います。皆様のご協力をいただいて2年間の任期を精一杯務めさせていただこうと思います。

どうぞ、よろしくお願ひします。

## 新規入会団体のご紹介

### < 支部名 > < 名称 >

- 佐久支部 カラマツストーブで森を守る会  
上小支部 中村至孝  
諏訪支部 NPO 法人サポートC  
諏訪支部 ハヶ岳親子農業体験の会  
上伊那支部 伊南子ども劇場  
上伊那支部 信州・天竜川どんぶり街道の会  
木曾支部 きそ源流里守  
大北支部 NPO 法人白馬山野草友の会  
北信支部 飯山有機の里研究会

### < 活動内容 >

- 間伐材の薪ストーブへの積極活用と荒れた山の再生支援  
(個人)  
茅野市民館の企画事業及び運営の支援  
身体や環境に優しい農業の実践、普及  
芸術鑑賞等を通じた子どもたちの健全育成支援  
地域の「丼」の広域的連携の強化、観光資源化  
地域の文化財、景観の保全、農林業生産活動の支援  
郷土山野草の植栽及び管理  
堆肥づくりと堆肥利用による農作物の生産、販売

◎以上、8団体と1個人が10月中旬までに新たに入会されました。

## ○会員の活動事例の紹介

### ～諏訪支部(発達障害児・者及び家族支援の会シーズ)～

地域づくり団体全国協議会の助成金を効果的に活用し、発達障害支援のためのフォーラムを企画・開催した「発達障害児・者及び家族支援の会シーズ」から当日の様子と成果等について寄稿いただきました。

#### 湯河原色えんぴつ・下諏訪シーズ共同企画フォーラム”発達障害支援を語る”実施報告

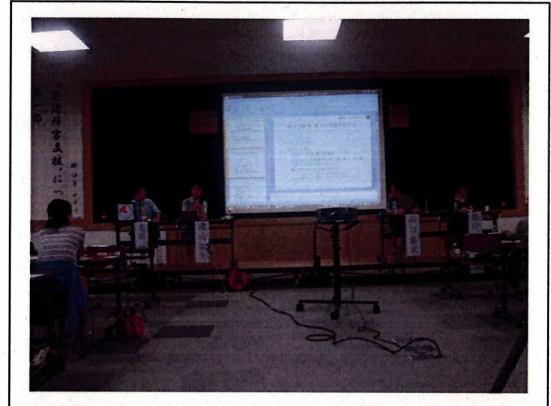
6月20日に諏訪市総合福祉センターいきいき元気館の交流広場で、作家田口ランディ氏を招いて、「発達障害支援を語る」というテーマで、講演会とトークセッションを行いました。参加者は119名（うちスタッフ27名）でした。これに先立つ6月12日には、田口氏がその立ち上げに関わった湯河原の「発達障害と共に生きる会 色えんぴつ」にシーズが出向き、同様のイベントを行っています。今回は両団体の共同企画ですが、「地域づくり団体等活動支援事業」の対象である、諏訪フォーラムについて報告します。

第一部では、まずシーズ理事で諏訪養護学校教諭である土田泰氏から、発達障害に関する基礎知識の講義を行い、続いて基調講演として、田口氏から「発達障害支援について」というテーマで講演していただきました。実体験をまじえて、発達障害に限らず「支援とは」を問い直す、迫力ある内容だったと思います。



後半のトークセッションは「とことん語ろう！！発達障害支援」というテーマで、コーディネーターに土田氏、パネリストには田口氏のほか、シーズ代表である武山弥生氏、シーズ会員の当事者の男性にも加わってもらい進めました。会場参加者を含めた討論では、支援現場の方、親の会の方、不登校経験のある若者、さらには当事者からの直接的な訴えもあり、何らかの困り感を持つ

人々の現状を、まさにライブ感をもって聴いていただくことができました。



メインゲストがいわゆる発達障害の専門家ではない、作家「田口ランディ」であったことは発達障害に直接関心がない人も会場に足を運ぶ動機となり、狙い通り幅広い人々の参加が実現できたと考えています。

また、会場ではシーズで2年ほど前から行っている臨床美術教室の作品展示も行い、活動の一環を紹介しました。



終了後も参加者から郵送で手紙による感想が届いたり、特別支援教育のイベントに関する企画書が送付されたりして、新たな連携が始まりつつあります。湯河原「色えんぴつ」との出会いと併せて、シーズの今後の活動に繋がるイベントとなりました。

## アグリビジネス講座備忘録

地域づくりネットワーク長野県協議会事務局 相田

地域の活性化は地域の個性を発揮することが重要とされていますが、その切り口として「食」があります。例えばイタリア発祥の「スローフード」運動は、伝統の再評価、環境負荷への配慮等を通じて地域の個性を発揮し、効率性、画一性といった価値観を覆す社会運動になっています。地域の「食」は地域の農産物と深い関係があり、農産物の生産・加工・販売等の農業関連産業、いわゆる「アグリビジネス」の活性化は地域の活性化にますます重要となっています。

今年のやまびこフォーラムは「食」がテーマです。その勉強のため、平成22年8月23日、9月16日に松本大学で開催された「アグリビジネス講座」(長野県農政部主催)を受講し、その内容を2号に分けて皆さんにご紹介します。松本大学は初めて訪問しましたが、中庭の噴水がきれいで「たまり場」もたくさんあって良いですね！



今年完成した松本大学7号館

2回とも講師は松本大学観光ホスピタリティ学科長の白戸洋教授で、学生を積極的に地域に出しながら松本地域の地域活性化を実践されています。松本大学の学生さんは地域にどんどん飛び込んでいって様々なプロジェクトを仕掛けています。

地元野菜のリヤカー引き売り、松本電鉄上高地線活性化、松本一本ネギプロジェクト、山賊焼き…。自分も公務員としてわくわくする話ばかりです。(と同時にもっとがんばらねばと反省も…) 右の写真のひまわりも、JAと学生が協力して耕作放棄地を活用し、見事な景観を作り出したほか、収穫した種からひまわり油まで作っています。

今回は講義の中で白戸先生からお話のあった松本駅西口のおそばやさんの事例について、「備忘録」という形でご紹介します。

※写真は「松本大学ブログ」からお借りしました。

### いばらない蕎麦屋「いばらん亭」

松本駅西口(アルプス口)周辺の中上地区は、60歳以上が60%の古い街並みで、再開発に伴う区画整理により、90世帯の3分の1が移転してしまい、地区の危機感が高まりました。

住民の皆さんが集まって今後を話し合う中で、気楽に集まれる場所と「いばらない蕎麦屋」があったらいいという話になり、その勢いのまま「いばらん亭」というソバ屋を開店することになりました。店の名前は民間企業を早期退職した町内会長さんが名付け、経営もしています。開店にあたっては松本大学の先生や学生さん、近所の人たちの協力があり、実現しました。

従業員は15名以上、皆60歳を超える地区の皆さんです。なんと固定費のかかるお店でしょうか(^\_^;)。労働集約的な仕事は雇用を生み、労働分配率を上げるので、総需要が減少の一途をたどる日本の処方箋ではないか、と思います。脱線です。

500円でソバとカレーライス2品40食を販売していたところ、昔ながらのカレーライスが若者には辛さが足りないとの意見を受け、松本大学で栄養学を教える先生の協力のもとオリジナルソース「いばらんソース」を開発したところこれが評判となり、今や主力商品です。

「630円」という価格も売れた要因の一つ。「400円」だとブルドックソースと比較されて日常使いには高いと中途半端になってしまいます。630円だからこそおみやげになるのです。今年は「いばらんどレッシング」の開発も行いました。

何より、身の丈に合った取り組みであるということが素晴らしいと思います。大繁盛より居場所・生きがい・持続性。この取り組みがまだまだ発展していきますように…(次号に続く)



キャンパス周辺に咲いた40万本のひまわり